

登録コード:MH411200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	作業解析学実習【20M以降】 Motion and activity analysis training			
担当教員	務臺 均 佐賀里 昭			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻 / 2年生 前期 月曜・1時限 月曜・2時限			
単位数、講義室	2 単位	保健学科OT実習室	保健学科 1 2 1 講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		生体計測によって得られた結果について、文献に基づいて考察する能力を習得する。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		各種生体反応について理解し説明できるようになる。各種評価機器の使用方法を理解し使用できるようになる。	
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。		グループで実習を行うことで、役割分担について責任をもって課題に取り組む力、協調性を養い実践する。	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		様々な生体活動に関する基本的・作業療法的知識を習得し、それを用いた様々な計測機器を用いて作業活動を分析することができる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		作業活動の基本的な分析能力や計測機器の使用方法を習得し、新たな課題に対する探究心を身につける。	
授業で学べる「テーマ」	その他			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	運動や作業遂行に伴う身体・精神活動について、臨床解剖学・解析学・運動学・生理学・力学・生体医工学の知識・手法で、作業活動に視点を置いた評価・解析方法とその実践を学習する。 本授業は、1年次に学んだ「生理学」「解剖学」「運動学」の知識が前提となります。そして、本授業の内容は、3年次に学ぶ「作業療法研究法」および4年次の「ゼミナール」における重要な基礎知識となります。 本授業は、各担当教員における医療機関や研究機関における作業療法士および研究者としての実務経験を活かして講義を行います。			
授業計画	第1回（4月13日）作業療法と活動・生体情報（務台） 第2回（4月20日）作業療法と活動・生体情報（務台） 第3回（4月27日）作業療法と活動・生体情報（佐賀里） 第4回（5月1日）作業療法と活動・生体情報（佐賀里） 第5回（5月11日）予備実験実習（務台・佐賀里） 第6回（5月18日）実習課題1～6（務台・佐賀里） 第7回（5月25日）実習課題1～6（務台・佐賀里） 第8回（6月1日）実習課題1～6（務台・佐賀里） 第9回（6月8日）実習課題1～6（務台・佐賀里） 第10回（6月15日）実習課題1～6（務台・佐賀里） 第11回（6月22日）実習課題1～6（務台・佐賀里） 第12回（6月29日）データ分析・課題報告の解説と準備（務台・佐賀里） 第13回（7月6日）データ分析・課題報告の準備（務台・佐賀里） 第14回（7月13日）課題報告とディスカッション（務台・佐賀里） 第15回（7月27日）課題報告とディスカッション（務台・佐賀里）授業アンケートを実施 第16回（8月3日）最終レポート提出（務台）			
授業の進め方	第1回～4回は基本的な知識について講義を行います。 第5回は予備実験を行い、機器に使用について学びます。 第6回～11回は課題1から6の実習（3～4名程度で6グループ）を行います。実習期間中は各個人所有のPCを持参してください。データ集計、解析に用います。 第12、13回は課題報告のための、データ解析やプレゼンテーション資料を作成します。 第14、15回はグループごと課題を一つ決めてプレゼンテーション実施します。 授業の進め方の詳細は、実習マニュアルを配布し、第1回目の授業で説明します。			
テキスト、教材、参考書	・2026版 実習マニュアル（後日配布）、その他配付資料。 参考図書 ・「運動学」「生理学」「解剖学」講義の関連資料や教科書。 ・レポート作成の際には、「医学中央雑誌」等の検索システムで論文を検索して、正しく引用すること。			
成績評価の方法	評価方法は、実習態度（20%）、毎回の実習レポートの内容（40%）、プレゼンテーションの内容（20%）、最終レポートの内容（20%）とする。出席は100%出席が原則となる。 ・			

成績評価の方法	達成目標については、実習の際に、生体情報の計測手法を実践できるか確認します。レポートやプレゼンテーションによって、計測原理・解析原理、作業遂行の医工学的解析手法、作業療法評価に応用できる基礎的手法が理解できているかを確認します。
成績評価の基準	出席、実習態度、毎回の実習レポート、プレゼンテーション内容、最終レポートによる総合的な判定基準は以下の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 【実習態度】 積極的な機器の準備片付や実習への取り組み方は必須です。 【レポート（毎回の実習、最終）】 レポートの構成、結果の内容および標記の仕方、考察の内容、提出期限の順守で判定します。 【プレゼンテーション】 プレゼンテーション資料の見やすさ、プレゼンテーションの分かりやすさで判定します。 これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における最低限の記述・説明内容であれば「水準にある（可）」、やや詳細な記述・説明内容であれば「やや上にある（良）」、十分に詳細な記述・説明内容であれば「かなり上にある（優）」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な記述・説明内容であれば「卓越している（秀）」と判定します。
事前事後学習の内容	事前学習 実習は必ず前もって実験マニュアルを熟読し、実験当日はすぐに実験に取り掛かれるようにしておく。また、講義内容に関連する運動学・解剖学・生理学の内容をテキストや参考書などで学習しておく。 事後学習 実習結果をレポートにまとめる。翌週の月曜日の授業の前に務台が回収する。講義内容やテキストおよび参考書を参考にして復習することが必要となる。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要です。 授業時間60時間+自己学習時間30時間=90時間
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	実習期間中の質問や意見は随時対応します。予習を含め、課題実施に当たっては必ず担当課題内容について確認して実習を進めること。その他の質問も随時対応します（要予約） ・ メールアドレス、務台：hitmutai@shinshu-u.ac.jp、佐賀里昭：sagaria@shinshu-u.ac.jp ・